

現況流下能力と整備計画実施区間の整理

2. 本川の現況流下能力と整備計画の整理

- 今後30年程度の整備計画では、事業規模等の観点から、仁川合流点下流の築堤区間を1/30、仁川合流点～名塩川合流点では1/15程度の整備を目標。
- 上流武庫川では、今後30年程度の整備計画において、地先評価1/2の整備を継続実施。

1. 整備計画の考え方

- 河口～青野川合流点の区間は、上下流バランスの関係から1/30を目指す。
- 上流武庫川は、現況の治水安全度が低く、現在整備中の計画を継続。
- 支川は時間雨量50mm程度を目標。

武庫川本川の各種計画流量の整理(第40回流域委員会 資料2-9 より)

単位 : m3

計画区分	流量種別	策定年	流量の算定方法				地点毎の流量																		
			評価地点	計画規模	計画降雨量	決定降雨パターン	流量計算の手法	甲武橋より下流	甲武橋(基準点)	仁川合流前	天王寺川合流前(宝塚)	逆瀬川合流前(宝塚)	一後川合流前	名塩川合流前	羽束川合流後	羽束川合流前	船坂川合流前	有馬川合流前	山田川合流前(相生橋)	青野川合流前	相野川合流前	細田橋	天神川合流前	波賀野川合流前	
河川改修事業 全体計画	広域基幹河川改修事業(下流区間)計画流量		甲武橋地点	武庫川ダム有で1/30(ダム無では1/17に相当)	240mm/2日	S44年型	貯留関数法	2600	2500	2300	2000		1900(改修中)	(1800)											
	中小河川改修事業(三田工区)計画流量		地先(羽束川合流点直下)	1/10	25mm/時間	降雨強度式(洪水到達時間=4.4時間)	合理式							2000(未完成)	1500	1400	1000	900	600						
	小規模河川改修事業、災害復旧助成事業等計画流量		地先(相野川合流点直上流)	-	23.2mm/時間	降雨強度式	合理式														350				
	広域基幹河川改修事業(上流工区)計画流量		地先(細田橋地点(市境))	1/2	17.6mm/時間	降雨強度式(洪水到達時間=1.42時間)	合理式															160(改修中)	120(改修中)	100(改修中)	
河川整備計画	既存施設(青野ダム)による調節後の流量 青野ダムは、100m3/s一定量放流	未	甲武橋地点	1/30	205mm/24時間	H16年型	準線形貯留型モデル	3758	3633	3531	3425	3329	3195	2921	2603	1980	1836	1038	892	589	461	263	191	104	
				1/20	191mm/24時間			3426	3301	3207	3107	3035	2906	2658	2360	1811	1668	938	811	531	420	240	174	94	
				1/10	167mm/24時間			2851	2726	2644	2556	2517	2417	2215	1964	1521	1404	777	680	430	347	199	144	78	
				1/5	141mm/24時間			2252	2127	2062	1990	1931	1857	1704	1528	1189	1100	598	522	321	264	154	112	60	



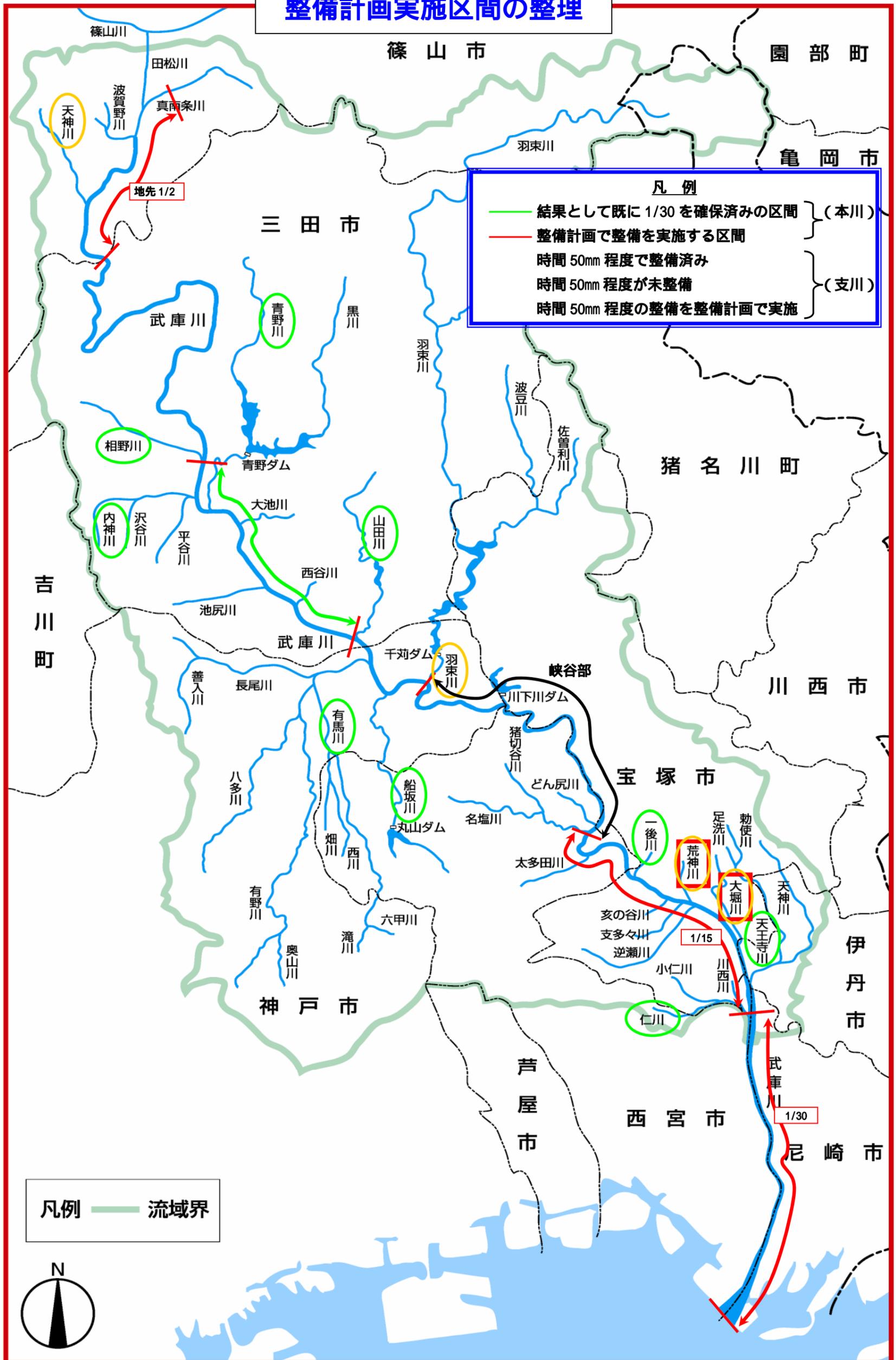
3. 支川の現況流下能力と整備計画の整理

- ・ 主要な支川の本川合流点付近の流下能力を下表に示す。改修計画に基づき整備した支川ではその実施流量を、またそれ以外の支川では現況横断面図から算出した HWL 以下の流下能力を整理している。
- ・ 今後 30 年程度の整備計画では、事業規模等の観点から、荒神川と大堀川の整備を実施。

河川名	整備流量(改修事業の実施流量)	現況調査に基づく最下流部の 現況流下能力 <small>カッコ内は現況流下能力の確率評価(甲武橋地点評価)である</small>
天神川		Q=48m ³ /s(1/10未満)
相野川	Q=120m ³ /s(中小河川改修事業、1/10)	
内神川		Q=145m ³ /s(1/10程度)
青野川	Q=220m ³ /s(災害関連事業、1/10)	
山田川	Q=170m ³ /s(河川局部改良事業、1/10)	
有馬川	Q=850m ³ /s(中小河川改良事業、1/10)	
船坂川	Q=160m ³ /s(河川局部改良事業、1/10)	
羽束川		Q=323m ³ /s(1/10未満)
一後川		Q=38m ³ /s(1/100)
天王寺川		166m ³ /s(1/10程度)
仁川		144m ³ /s(1/70程度)
大堀川		15m ³ /s(1/10未満)
荒神川		13m ³ /s(1/10未満)

第 37 回流域委員会 資料 2-5 より
年超過確率 1/10 相当は時間雨量 50mm 程度
ハッチは時間 50mm の不足区間

整備計画実施区間の整理



凡例

- 結果として既に 1/30 を確保済みの区間 (本川)
- 整備計画で整備を実施する区間 (支川)
- 時間 50mm 程度で整備済み
- 時間 50mm 程度が未整備
- 時間 50mm 程度の整備を整備計画で実施

凡例 — 流域界



0 1500 3000m

3.1 各区間の整備内容（上流区間・支川）

3.1.1 上流武庫川工区（篠山地区）

- ・ 武庫川の上流区間では、平成 8 年洪水ならびに平成 16 年洪水により浸水被害が生じている。
- ・ この区間は、現在広域基幹河川改修事業を実施しているが、今後も、河床掘削、築堤などにより目標流量が流下するよう整備を実施していく。なお、現在以上の目標流量は、上下流バランス（大安橋～市境の整備状況）を考慮すると困難である。

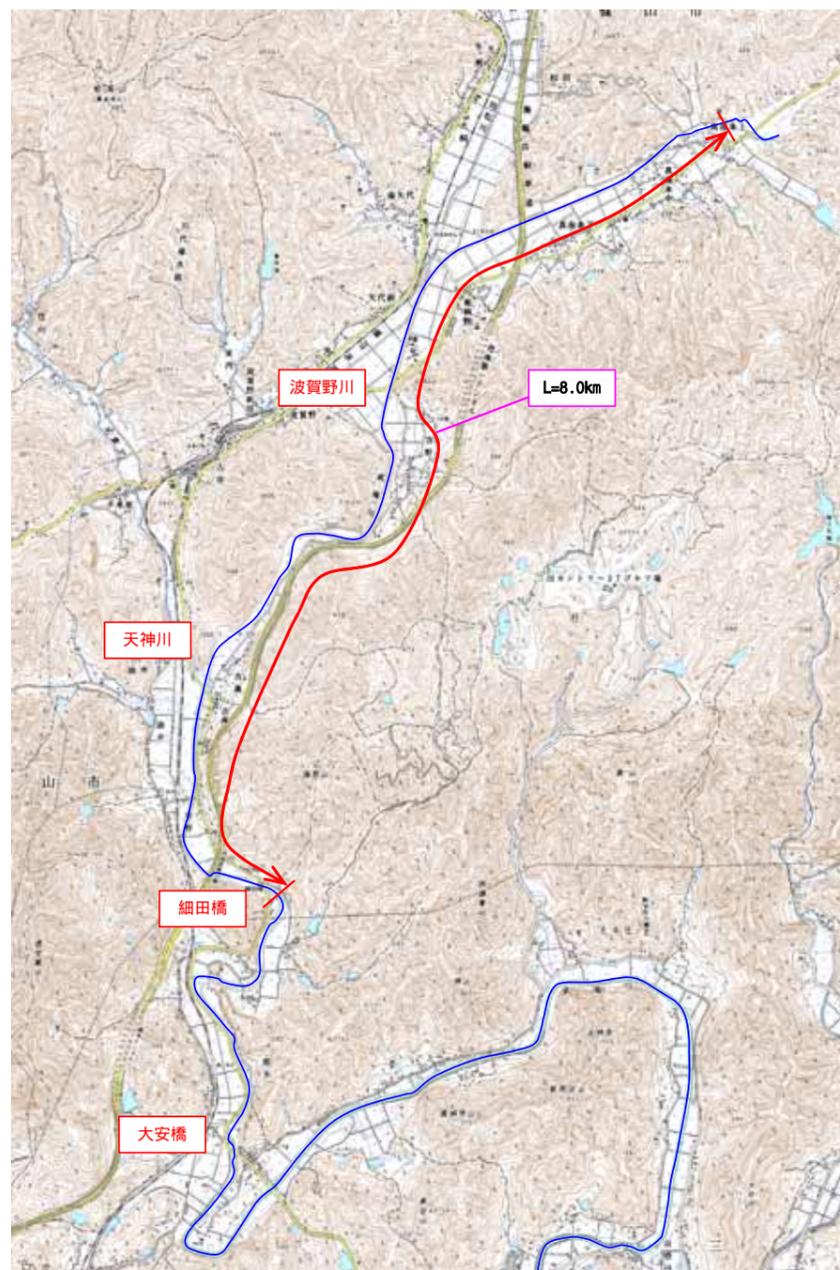


図-1 整備対象区間（武庫川上流工区、篠山地区）

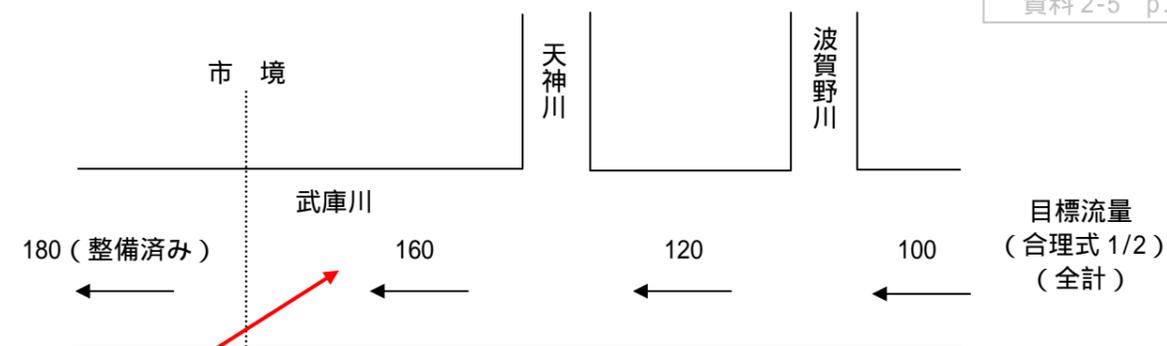
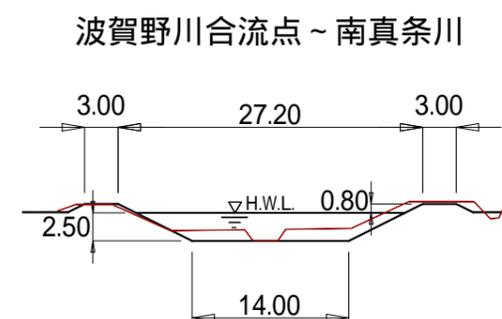
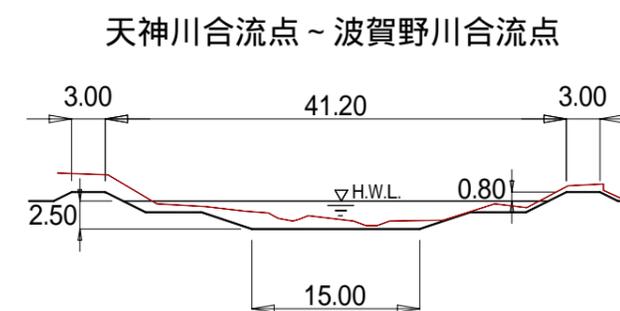
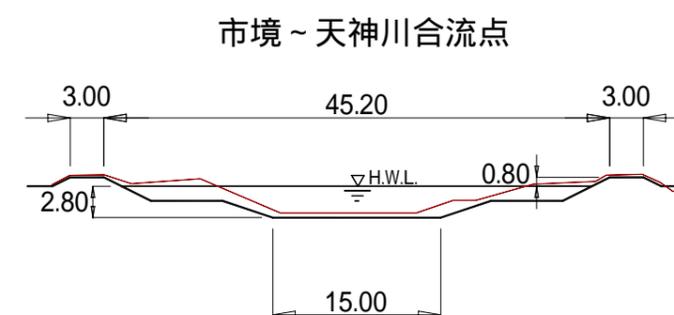


図-2 整備計画目標流量（上流武庫川工区（篠山地区））

上流武庫川工区（篠山地区）は、平成 17 年度までに整備した細田橋より下流区間の治水安全度が、地先評価で 1/2 であることを考慮すると、上下流バランスの観点から、現時点では、これを上回る目標流量設定は困難である。



— 現況
— 計画

図-3 整備横断イメージ（上流武庫川工区（篠山地区））

3.1.2 大堀川、荒神川

- ・ 大堀川周辺では、平成 11 年 6 月洪水、平成 12 年 11 月洪水等、近年洪水において浸水被害が生じている。現況河道の流下能力は 15m³/s 程度であり、目標流量 50m³/s (時間雨量 50mm 程度) を流下できず、内水の排除も困難となっている。河床掘削と橋梁架替等を実施し、目標流量が安全に流下可能となるよう整備を実施する。
- ・ 同様に、荒神川においても浸水被害がみられる。また、現況河道の流下能力は 13m³/s 程度であり、目標流量 39m³/s (時間雨量 50mm 程度) を流下できないことから、目標流量が安全に流下可能となるよう整備を実施する。

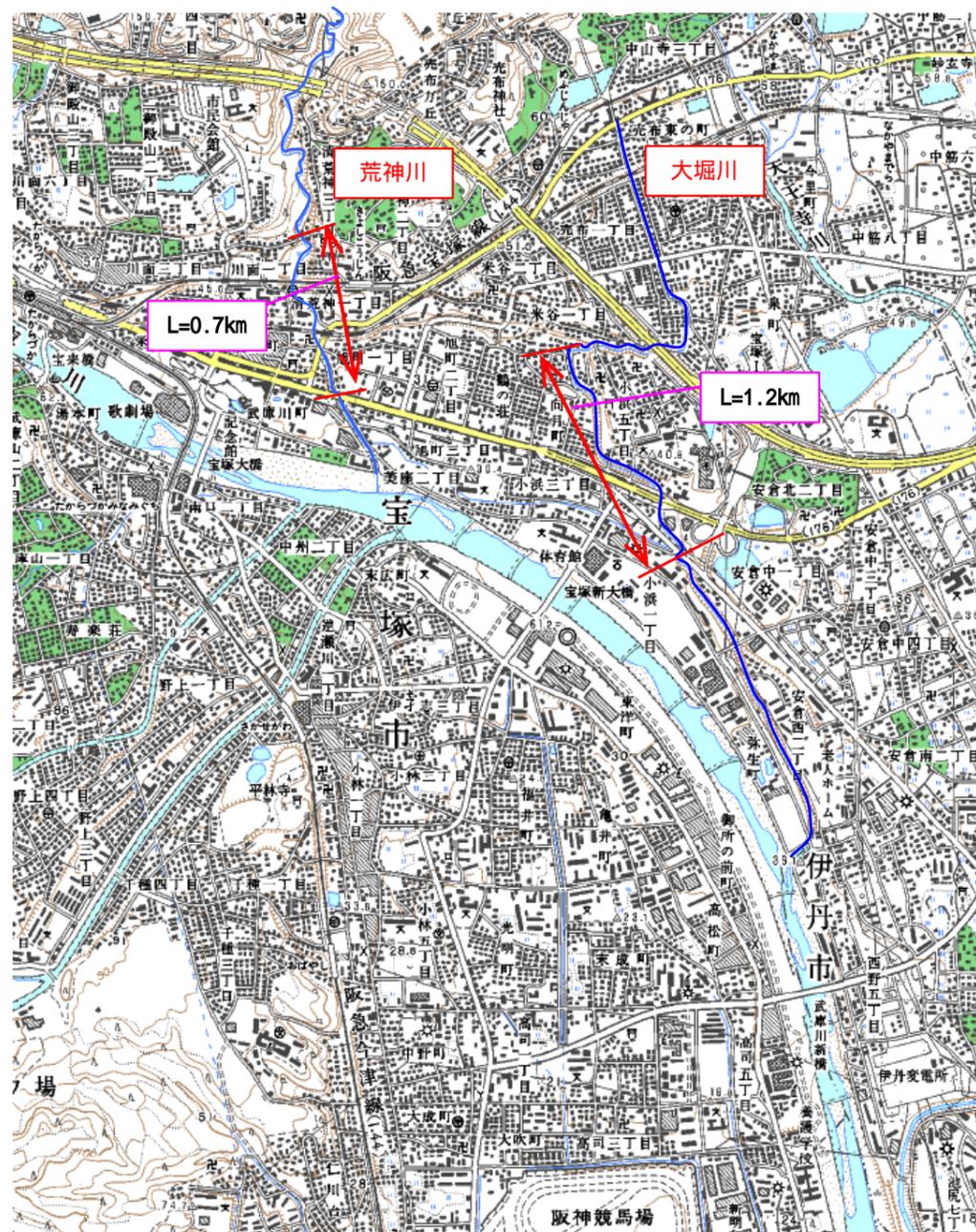


図-4 整備対象区間 (大堀川、荒神川)

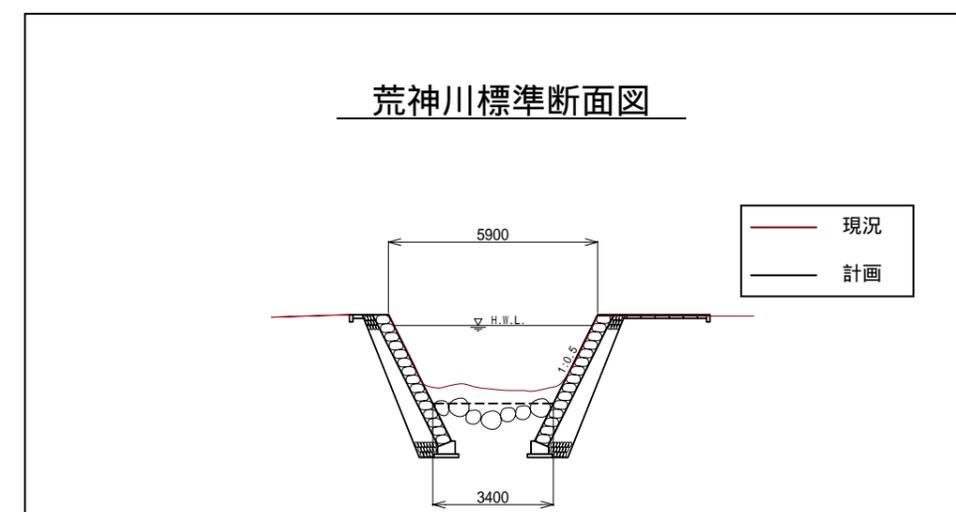
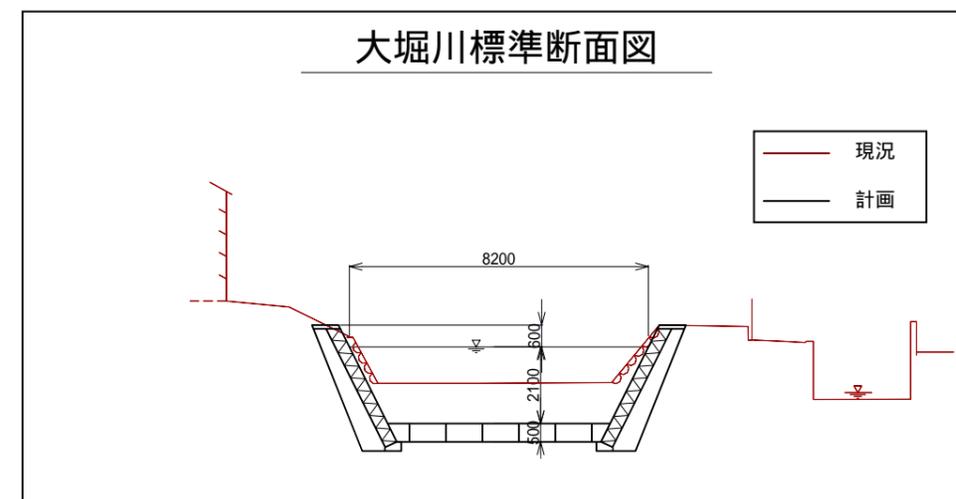


図-5 整備横断イメージ (大堀川、荒神川)